

月刊

通巻

597

地図中心

2022年6月



地図と学ぶ

特集 福井県の博物館は多士済々

- ① 恐竜
- ② 年縞
- ③ 繩文
- ④ 繼体天皇
- ⑤ 越前和紙
- ⑥ 鮎街道
- ⑦ 一乗谷
- ⑧ 北前船





おかげさまで 50 年

日本地図センターは 2022 年 2 月に
1972 年 2 月の設立から 50 年を迎えました

地図中心 596 号 目次【特集 福井県の博物館は多士済々】

魅力体感 福井のタイムトラベル
福井と恐竜
年縞が伝えるサイエンスの世界
三方五湖をくらしの場とした縄文人
越前と繼体天皇
越前和紙の里
海と都をつなぐ「鰐街道」
新・一乗谷博物館から始まる遺跡体験
北前船交易と三国湊

伊与	登志雄	3
芝原	暁彦	4
長屋	憲慶	7
小島	秀彰	10
角鹿	尚計	13
石川	浩	16
下仲	隆浩	19
石川	美咲	22
上出	純宏	25

【連載】

《日本百名山が見える鉄道 見えた鉄道 03》九頭竜線（越美北線）から荒島岳
《地図心中 復活版 19》絵解き－16 記憶と今 福井県大野市
《脳内散歩地図 133》信長公記地図 その 12
《地図づくり最前線 005》地図表示システムを刷新、多彩なテーマのマップを提供可能にした地図アプリ 片岡 義明
《歴史舞台地図追跡 75》江戸・東京をめぐる虚像と実像（その伍）
《地図を片手に大地を駆ける 69》伊豆半島ジオパークロゲイニング大会
《ベクター地歴地図孤軍奮闘記 45》地名町名を大切に
《日本列島 1/20 万 鶴の目鷹の目 15》電子地形図 20 万「浜田」
《地図四方山話 7》「究極の地形図」を求めるものたちの成果を鑑賞しよう（その 1）
- 彩色原図の原色再現による作者個人の評価から見えてくる空白の史実 -

清水	長正	28
高橋	美江	30
江川	達也	32
		36
谷口	榮	38
小泉	成行	40
小島	豊美	42
小泉	武栄	44
長島	彬	46

新刊地形図案内 / 48 日本地図センター便り・今月新刊の見どころ！ / 49
編集後記・次号予告 / 50 地図書窓 / 52

月刊 地図中心

◆「地図中心」は毎月10日発行です◆

1 冊 880 円 (税込)

地図俱楽部

◆紙版と電子版のご購読会員
年間購読 1 年間 12 冊

プレミアム会員

6,600 円 (税・送料込)

プレミアム会員（シニア）満 65 歳以上

5,500 円 (税・送料込)

◆電子版のみのご購読会員（紙版は送付されません）

地図俱楽部会員	会費 (税込)	入会資格
一般会員	5500 円	なし
一般会員（シニア）	4400 円	満 65 歳以上
学生会員	2200 円	学生または 18 歳未満の方

地図俱楽部事務局	map-club@jmc.or.jp	03-3485-5417
----------	--------------------	--------------

《表紙》

「福井県全図」（国土地理院の地図データを基に作成）に特集関連施設を示す。

関西時層地図

KANSAI JISOU MAPS



関西時層地図

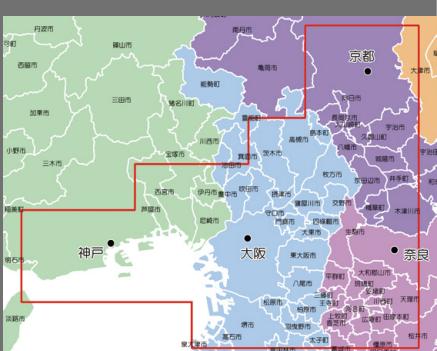
検索



一般財団法人日本地図センター

<https://www.jmc.or.jp/>

--- 収録範囲 ---



--- 製品情報 ---

◆発売日

2022 年 2 月 1 日

◆対応 OS

iOS 15 以降

◆価格（定期購入）

1 週間 100 円（税込）

1 カ月間 200 円（税込）

1 年間 800 円（税込）

◆お問い合わせ

時層地図に関するお問い合わせは、メールでお願いします。

次の項目をお知らせください。

mailto : appli@jmc.or.jp

- ・お名前

- ・メールアドレス

- ・件名・アプリ名

- ・本文

魅力体感 福井のタイムトラベル

いよとしお
伊与 登志雄

都道府県別の「幸福度ランキング」で4回連続1位となった福井県。雇用が安定し、持ち家比率など生活分野の数値が高く、3世代同居などで家族が助け合うライフスタイルが好循環を生み出している。実感がないという県民の声もあるが、自然環境や歴史的にみても、福井は「豊か」な地域であった。2024年春の北陸新幹線福井・敦賀開業を控え、県を挙げてPRに力を入れている。ここでは、豊かな自然や歴史遺産に彩られた福井県の魅力を紹介しよう。

日本列島のほぼ中央部に位置する福井県は、北陸トンネルが貫く木ノ芽山地を境に、北部の嶺北と南部の嶺南に分かれます。かつての越前国と若狭国が合併してできた県域で、嶺南の敦賀は越前に属するが、若狭路の一部でもあります。

福井県は「象が横を向いた形に似ている」といわれる。若狭は伸びた象の鼻のようだ。実際、日本に初めて象が上陸したのは室町時代の若狭の小浜だった。スマトラ島(インドネシア)の華僑の頭目が将軍に献上するため、船で運んできた。

「越山若水」という言葉があるように、越前は緑の山々が連なり、県境の山を水源とする九頭竜川が盆地や平野を潤し、農業が発展した。若狭は清らかな水に恵まれ、風光明媚な名勝・三方五湖やリアス海岸があり、日本海の対馬暖流は豊富な海産物をもたらした。朝廷に食材を納めた古代の若狭は「御食国」といわれた。ま

た、福井は古くから海を通じた人々の交流や交易が盛んだった。

福井を旅するなら「時間」を軸とすると面白い。何億年もの昔から近現代まで、時代の息吹を体感できる。

JR福井駅西口を出てすぐ、来県者を出迎えるのは巨大な恐竜のモニュメント。竜脚類「フクイティタン」をはじめ3体の福井産恐竜が動き、ほえる。福井県は国内随一の恐竜化石産地で、まさに「恐竜王国」だ。勝山市にある県立恐竜博物館は、県の人口を上回る年間90万人が訪れた年もある観光スポットになっている。化石の発掘体験も楽しめる。第2恐竜博物館の建設も計画されており、恐竜は世界に誇る「福井ブランド」として磨きがかかるそうだ。

地質ファンが見逃せないのは、若狭町に2018年に開館した県年縞博物館。三方五湖の一つ、水月湖の湖底にある縞模様の地層「年縞」の実物を展示する。湖には過去7万年分が堆積、世界標準の「年代のものさし」になった。

年縞博物館に隣接する若狭三方縄文博物館は国内有数の縄文遺跡、鳥浜貝塚の出土品を中心に展示する。漆製品をはじめとする高度な縄文の技や、自然と共生した縄文人の暮らしから現代人が学ぶべき点は多い。

福井人が日本の歴史で輝いた時代があった。中でも越前出身とされる繼体天皇が登場した古墳時代、朝倉氏が5代約100年にわたり城下町を支配した戦国時代、政局に大きな影

響を及ぼした福井藩主松平春嶽が活躍した幕末に注目したい。彼らの背景には、大陸の進んだ産業や文化、情報を積極的に取り入れた先進性もあったとみられている。

福井市にある国の特別史跡・一乗谷朝倉氏遺跡そばに今年・2022年10月、新たに博物館が開館する。居館の原寸再現や川湊の露出展示もあり、戦国の世がよみがえる。

その朝倉氏遺跡では「笏谷石」と呼ばれる福井市の足羽山産の緑色凝灰岩が目を引く。ぬれると美しさが際立ち加工もしやすいため、屋敷や庭園のほか、墓石、日用品などに多用された。中・近世にはブランド品として北前船交易で三国湊から日本海側の各地に運ばれた。

石だけでなく、嶺北南部の丹南地域には和紙や漆器、陶器、打刃物などの伝統工芸や眼鏡枠の産地が集積している。福井は信仰心も厚い土地柄で、浄土真宗中興の祖・蓮如が拠点とした吉崎御坊(あわら市)や曹洞宗の大本山永平寺(永平寺町)は有名だ。奈良時代の僧泰澄が開いたとされる白山信仰も今に息づく。

こうした多彩な歴史・産業遺産の周囲には個性的なミュージアムが点在する。新幹線開業に向けた県のキャッチコピーは「地味にすごい、福井」。福井の歴史を掘り下げるに、日本史の大きな流れが見えてくる。ぜひ一度足を運んで、福井ならではのタイムトラベルを満喫していただきたい。

伊与 登志雄

福井新聞社参与・編集局特別編集委員。1960年福井市生まれ。東京都立大卒。文化生活部記者を皮切りに、社会部編集委員、経済部長、文化生活部長、報道センター長、論説主幹など歴任。



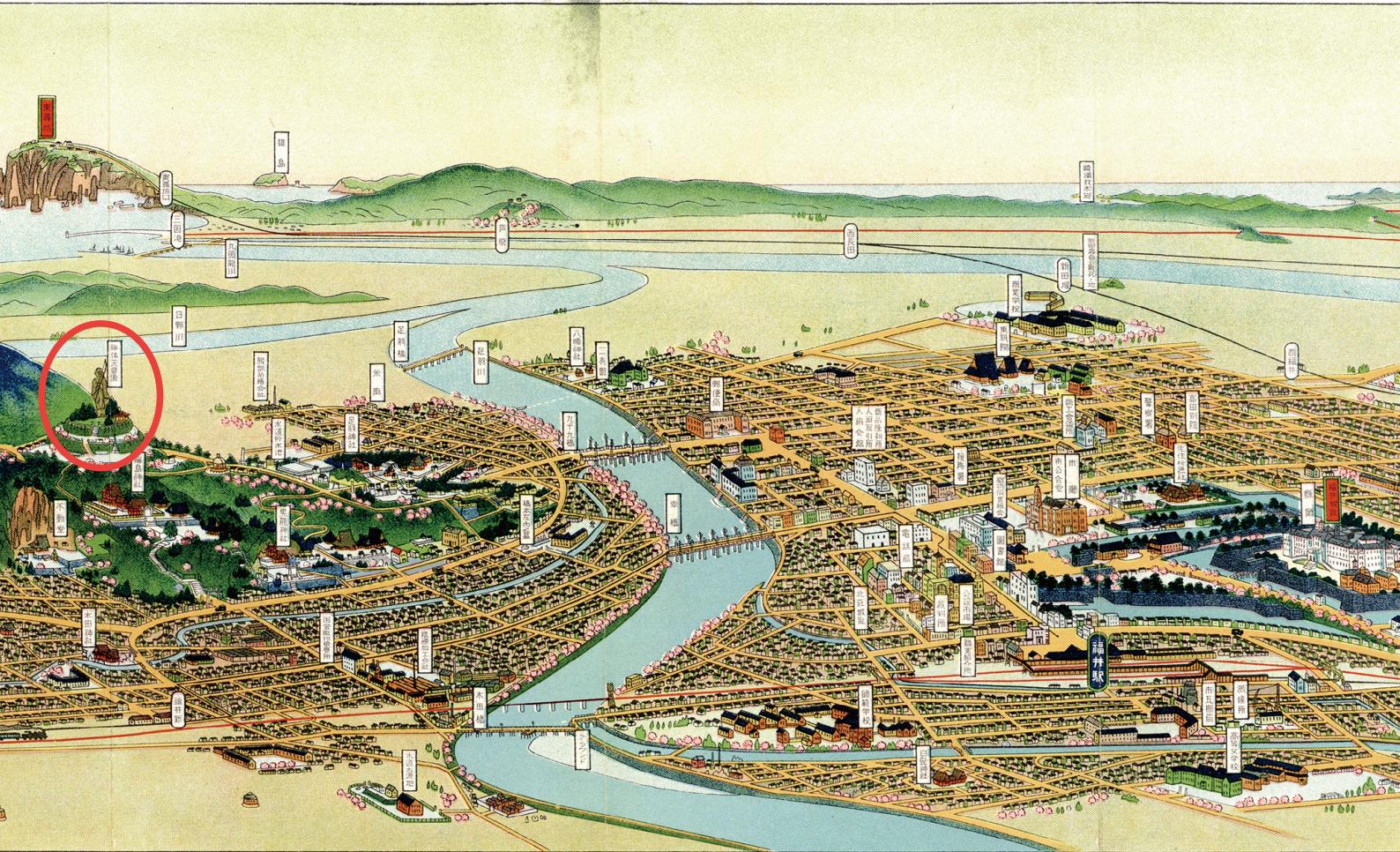
福井市のJR福井駅前にある恐竜のモニュメント

編集後記

福井県の多面的かつ多層的な魅力を発信している博物館、それぞれに訪ねてみたくなるところばかりです。かくいう自分も、恐竜⇒年縞⇒…と回ってみたく、スケジュールや行程などを検討しているところです。

「福井市」鳥瞰図、吉田初三郎、1935(昭和10)年、個人蔵

ここでは、吉田初三郎の鳥瞰図「福井市」(部分)をご紹介。継体天皇石像が足羽山にかなりのサイズにデフォルメされています。もう少し大きく全面をご紹介したいのですが、紙面の都合上… (編集長・小林政能)



次号予告 2022年7月 通巻598号

毎月10日発行

地図と学ぶ月刊

地図中心 総特集 日本ロングトレイル図録

トレイル=小径を長距離歩いて旅をするのが「ロングトレイル」。アメリカやヨーロッパでは1000kmを超える長距離ルートが整備され、近年では韓国でも盛んに。日本でも全国で整備が進められ、注目を集めています。

歩くスピードで旅するトレイルに必須なアイテムは地図。日本各地のロングトレイルをご紹介します!!



バックナンバーのご案内

地図中心

検索

「地図倶楽部」へのご入会をお待ちしています! 03-3485-5417(事務局)

地図中心
2022-6 通巻597号

発行 2022年6月10日
発行所 一般財団法人日本地図センター

〒153-8522
東京都目黒区青葉台4-9-6
電話 03-3485-8125
FAX 03-3485-5593
(「地図中心」編集室)
メール chushin@jmc.or.jp
URL https://www.jmc.or.jp

©一般財団法人日本地図センター
定価 880円(税込)
印刷所 昭栄印刷株式会社

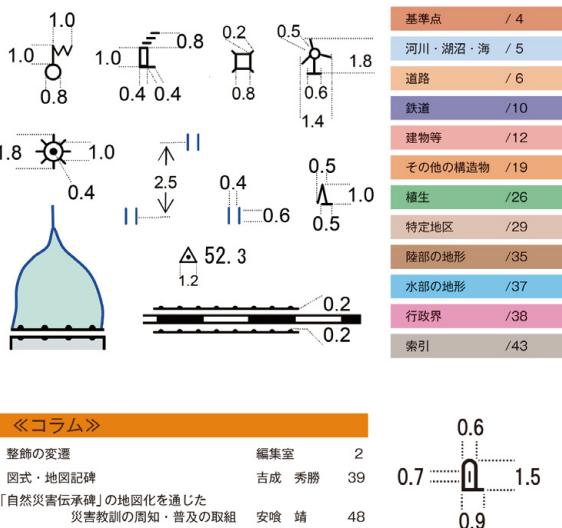
地図と学ぶ月刊誌



本誌の一部あるいは全部を無断で複写・複製・転載することは、法律で認められた場合を除き、禁じられています。

地図記号 500

地図記号 500



一般財団法人 日本地図センター

こんなにあった！ 地図記号



自然災害伝承碑 を加えて
四刷を発行

明治の地図から、激動の大正・昭和、そして平成・令和の多色刷まで集めてみました。

日本の基本となる地図（地形図）を整備するために、明治初期の地図で生まれた地図記号は、時代と共に移り変わってきました。そのたくさんの地図記号のなかから 500 (+1 自然災害伝承碑) を選んで掲載しました。

歴代の地図に使用された個々の記号は、作られた当時の社会情勢を物語っており、その時代に思いを馳せることができます。また、地図づくりが、アナログからデジタルに変わり、記号の味わいも変化しているように見えます。



サイズ：A4判 47ページ オールカラー 定価 550円 (本体 500円+税)

●ご注文方法

○インターネット：

日本地図センターネットショッピングサイト

<https://net.jmc.or.jp/book/map/kigou500.html> よりご注文下さい。

○メール：

日本地図センター情報サービス部情報サービス課 maps@jmc.or.jp
お名前、お電話番号、ご住所、冊数を明記してご注文ください。



(一財) 日本地図センター

〒153-8522

東京都目黒区青葉台 4-9-6

情報サービス部情報サービス課

TEL:03-3485-5414

FAX:03-3465-7591

<http://www.jmc.or.jp/>

●お問合せ

地図記号 500